

第8回 東備西播定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事概要

- 1 日 時 平成 27 年 12 月 17 日（木） 14：00～16：00
- 2 場 所 備前市役所 3 階 大会議室
- 3 出席者及び構成員等 委員 12 名 （内アドバイザー 1 名）
ワグザバー 3 名 （岡山県 2 名、兵庫県 1 名）
事務局 11 名 （備前市 4 名、赤穂市 3 名、上郡町 2 名）
説明員 8 名
- 4 議事の概要

事務局 定刻になりましたので、只今から、第 8 回東備西播定住自立圏共生ビジョン懇談会を開会いたします。

開会にあたり、座長の備前市自治会連絡協議会会長 宇治橋様よりごあいさつをいただきたいと思います。

座 長 本日第 8 回東備西播定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催いたしましたところ、委員の皆様には何かとご多用の中、ご出席賜りまして誠にありがとうございます。昨年以來の開催となりますが、異動等により今回より新しく委員になられました方におかれましてはどうかよろしく願いいたします。さて、この東備西播定住自立圏では、ご案内のとおり圏域全体の魅力の向上、活力ある地域づくり、住みよい圏域形成を目指して、圏域共生ビジョンに基づいた様々な事業を展開しているところであります。本日は、共生ビジョンに記載した取組みの進捗状況の報告や、平成 28 年度のビジョン見直し（案）についてご検討いただくとともに、住みよい圏域形成に向け、お互いに意見交換やご提案をいただければと考えております。本日はどうぞよろしく願いいたします。

事務局 ありがとうございます。

会議の前に、構成員等本日の出席者の紹介をさせていただきます。

（名簿により構成員等の紹介）

それでは、ここからは座長に議事進行をお願いいたします。

座 長 それでは、お手元の次第に従いまして議事を進行させていただきます。第 3 番目「東備西播定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について」、事務局から説明願います。

事務局 それでは、東備西播定住自立圏共生ビジョンの進捗状況として資料 1「平成 26 年度事業報告書」及び資料 2「平成 27 年度上半期報告」がございますが、資料 1 を中心に説明させていただき、平成 27 年度の進捗状況に関しましては、資料 1 の説明にあわせてポイントのみ説明させていただきます。

なお、各取り組みに関する詳細については、本日各部会より説明員が来ておりますので、ご質問等につきましては、説明後にお尋ねいただければと思います。それでは説明いたします。

(資料1、2説明)

以上で、東備西播定住自立圏共生ビジョンの進捗状況についての説明を終わります。

座長 ただいまの報告について、質問をお受けいたします。どなたか質問はありますか。

委員 26年度1年間の予算と実績のような形で書かれていますが、計画された全項目のトータルがいくらで、予算がいくらで、いくら使われたという総覧的なものはありますか。

事務局 26年度の決算といたしましては、歳入として56,651,945円、歳出として51,066,435円となっております。

委員 報告の中に総額というものは添付されないのですか。

事務局 事業として今回は委員の皆さんの意見を聞きたいということでトータルの金額を掲載していませんが、それぞれの金額については個別に決算という形で載せておりますので、それでご判断いただければと思います。

委員 私どもは素人ですから、全体の金額がわかる方がいいんじゃないかなという考えから質問させていただきました。

座長 他にありませんか。

委員 18ページのJRの利便性向上事業というところですけど、先日の新聞で赤穂線のことが書かれていました。私は上郡に住んでいますので、直通もなく不便を感じておりますが、この要望会で、どんな要望がなされていて、どういう返事がいただけて、それがどういうふうにつながっているのかということは教えていただけますか。

事務局 まず、最初にありました新快速のお話ですが、それにつきましてはまだ正式にJRの方から発表はありませんのでこの場でお答えすることは控えさせていただきます。要望事項の内容ですが、あくまで「県境協議会」という形で、赤穂市、上郡町、備前市、それからもう少し北の佐用町、美作市などが一緒になって協議会を作っており、県境の交通の利便性を高めるためにという目的で、JRの神戸支社または岡山支社に対して、県境の交通の利便性を高めるための要望を毎年行っています。

委員 要望はわかりました。それに対してのJRの方向性やお考えはどういうご返答があるのでしょうか。

事務局 やはり民間ですから、乗降客等の数字が大きなウエイトを占めているという中で、この圏域のJR利用者が少ないということで、今のところ現状維持というこ

とです。

委員 ちよっといいですか。私も同じ質問の延長ですが、要望も大変大事ですが、進歩がないのでしたら、看板を作ってみるとかあるいは署名をするとか、啓発グッズを作って、もっとそれを広める必要があるのではないかと思います。

座長 ありがとうございます。この新しい提案について、もう少し積極的にというお考えは事務局ではお持ちですか。

説明員 JRへの啓発活動ですが、今後は部会でさらに検討して、そういったことも積極的に考えていきたいと思います。

座長 ありがとうございます。よろしくお願いします。

他に何かありませんか。ないようですので次に移らせていただきます。

「4協議事項」に入ります。「東備西播定住自立圏共生ビジョンの平成28年度見直し(案)について」事務局から説明願います。

事務局 事業進捗状況及び協議状況を踏まえまして、来年度に向けた共生ビジョンの見直し(案)を説明いたします。資料3をご覧ください。

(資料3説明)

以上で平成28年度ビジョンの見直しについての説明を終わります。

座長 これにつきまして、みなさんよろしいですか。

委員 ちよっといいですか。観光ですが、この間、私の集落の先輩が金沢へ行ってきまして、こういう、全周したらどのくらいとか、1箇所行ったらどのくらいとか色々な形の、地区をうまくつないで連携した観光ルートのパンフレットを作っていますね。そういう連携した観光ルートを作って、赤穂・上郡・備前を回っていくような案を考えていただいたら面白いんじゃないかと思います。

座長 ありがとうございます。そういう提案をいただきましたので、事務局にもしつかりこれを踏まえて検討をいただきたいと思います。これについて、事務局は何かコメントがありますか。

説明員 貴重な意見をありがとうございます。議会等でも、備前市の中でもそういう周遊的な観光というものは言われます。東備西播という圏域の中でも、周遊的な観光というものを私どもも考えていきたいと思いますので、またご意見をいただければと思います。

委員 ていじゅうろうのバス運行について、10月から備前ルートを毎日私どもの方で運行させていただいています。まだ実績が2か月半しかありませんが、若干利用者が下がり気味になっているような傾向があります。理由はわかりませんが、人の往来が変わったのか、あるいは備前バスさんが撤退されたので、「以前運行していた曜日のバスが動いてないんだ」といったこともありますので、改めて宣伝なり広報なりをやっていただいたらもっと利用が増えるのではないかと思います。

私どもも兵庫県側のバス会社なので、備前市側の動きがわかりかねるということもありますので、備前市さんと勉強しながら進めさせていただけたらと思います。

もう一つは、「ともリンク」というのが開設されていますが、ヒット件数等を教えていただけますか。メディアにはアピールしているんですけど、実際に必要な方が本当にそこへアクセスをしているのかどうか。やっている方からすれば、ここにもここにも情報提供してるじゃないかというんですが、実際に利用者側からすれば、それが利用されていなければ本当にメディアへの露出ができていいのかという大事なポイントになると思いますので、データ等がありましたら教えていただければと思います。

説明員 1点目の圏域バスの関係ですが、ご存じのように、日生運輸撤退の関係で備前市が直営という形で運行を始めました。その際、事前に市民の方にはチラシを配布しましたが、その中には圏域バスが入っていませんでしたので、市のバスだけ運行したのかなという思いが利用者の方にあったのかもしれませんが、10月1日以降は利用者が減っているということを先ほどお聞きしましたので、ぜひ広報活動等でそれを補って利用促進につなげたいと考えております。

事務局 先ほどの「ともリンク」のヒット件数についてですが、申し訳ございません、今その数については、今、把握しておりませんのでご了承ください。

委員 提供する側はなんでも色々なところに提供しているということになるんですが、それが必要な人に行き渡っているかどうかというのが一番わかりやすいのがヒット件数だと思いました。まず、そこへアクセスがなかったらその情報の価値はないという判断ができるのではないかと思います。いろいろな取り組みをされていますが、必要な人が本当に必要な情報を取りに行ける状況であるということも必要ではないかと思います。

事務局 ありがとうございます。いただきましたご意見を参考にして今後進めたいと思います。

アドバイザー 今、全体をお伺いして一番気になるのは、やっていることそのものがどういうふうな効果を生んでいるのかということ。このビジョンそのものが理念となるのですから、理念に即して、それぞれの事業がどんな効果があるのかを、もう少し考えていく。これは後ほどお話があるかもしれませんが、あれこれやってただ「やりました」、「これだけの人が集まりました」ということだけではなくて、指標をはっきりさせて、「こういう点がこうなってくるとこの事業は価値があったのだ」ということを、もう少し意識する必要があるのでは。これだけのお金をかけて、どこまでの効果を出すということを考えて、そしてその効果が出たのかどうかという、厳密な費用対効果を考えながらやるということは、多くの会社でやっています。行政的な事業においても、もう少し評価の視点を持つ必要があると

思います。今日、たくさん事業をやって大変だな、ということはよくわかったんですが、じゃあ、どれだけ人口が増えたのか、どれだけ圏域の方々が幸せだなと感じるようになったのかを、もともと持っている理念に即して、もう少し考える必要があるかなと思います。それで効果のないものは早くやめていって、別のところにそのお金を使うというのが当然だと思います。

座長 ありがとうございます。これを踏まえまして、東備西播定住自立圏共生ビジョンの見直し（案）について、ご異議、ご意見はありませんでしょうか。

ないようですので、次の5番目、意見交換に移らせていただきます。ここからが、秋川先生もおっしゃったように肝の部分になると思います。では秋川先生、アドバイス等を含め、まずお話しただけたらと思います。

アドバイザー 関西福祉大学発達教育学部に所属しています。関西福祉大学は圏域にある唯一の大学で、いろいろな形でお世話いただいていますし、それぞれの市町と提携を結び、様々なことをやらせていただいています。

今日は提案のレジュメという形で書かせていただきました。今回資料を見て、非常にたくさんのことやろうとしているということはわかります。もちろん、それは大変結構なことですが、もともとの定住自立圏という点からすると、もう少し絞込みをしてもいいんじゃないかという感じがしました。それからもうひとつ、今回のプランと、昨年の議事録を読ませていただいて、多田先生もおっしゃっていましたが、子育てという面があまり強く出ていないかなと私も感じました。といいますのは、子どもたちのためにお金をかけ、子どもたちのためのまちづくりをすると、そのまちに活気が出てきて、色々な波及効果が出てくるんです。親御さんたちは若いわけですから、当然そこで働く、もう少し言うとその方々が介護の担い手になってくれるということもあります。そういう意味で、子ども施策に力を入れるということは非常に重要だと思います。私は保育・幼児教育のことを勉強していますので、全国的に見るとこの圏域の子育ての環境というのはすばらしいと思います。施設においてもそうですし、教育の面から見ると、閑谷学校は我々の世界では本当にすばらしいものです。そういったものがあるこの圏域に住んでいることは幸せなことです。赤穂の中にも、あちこちに海洋科学館をはじめ子どもたちの施設がたくさんあります。それがもうちょっとつながりあって外へPRしていくと、外からたくさん入ってくるという可能性もあると思います。

そこで、1つ目の視点は、絞り込みとして、「みんなが共に生きてみんなが育ち、みんなが力を合わせて学び・育ち・子育てができる」地域にするというのが一番重要なことだと考えます。

2つ目の視点は、子ども観の考え方を少し変えていく。子どもというのは、大

人からみると保護したり援助したりという視点で考えてしまうのですが、子どもというのは本当に色々な力を持っていますので、「まちの担い手のひとり」という感覚で見る必要があるのではないかと思います。

3つ目の視点ですが、3市町間のネットワーク化をさらに図っていくということです。

こういう視点を絞り込んだ具体的な提案をしています。

まず、地域には子育て支援の団体やグループがたくさんあります。それをもっとつないでいく必要があると思います。それについて具体的な提案なんですけど、岡山県には、こういう、子育て支援の施設や親子でできる「場」などの子育て支援情報を集めた「情報誌」があります。「岡山のお母さんが創る、岡山のお母さんのための子育て応援マガジン」と書いてありますが、それに、大学の先生方も協力しています。もちろん有償で、結構売れているそうです。定住自立圏推進協議会の中で市販は難しいかもしれませんが、こういうことをやっている団体を応援するということがあってもいいのかなと思います。それをやるのが、まさに私どもの大学と役所の企画課や子育て支援の関係のところだと思います。将来的には「子育てカレッジ」、これも岡山の方はご存知だと思うんですが、岡山県は、県民局が中心になって、大学の中に子育て支援の仕組みが作られています。そして、親御さんたちがいつでも大学にある子育て支援のセンターに子どもたちを連れて来られるようになっていきます。兵庫ではこういうことをやっていないものですから、定住自立圏という発想の中で、関西福祉大学にこういうものが作られるといいなと思っています。それから、同じネットワークの問題ですが、これはすぐにはできることだと思います。いろいろな機関がやっている事業をつなぎ合わせていく。すでに赤穂・備前・上郡にあるもの、やっていることをお互いにキックする。そうしていくことでネットワークができてくると思います。すでに親御さんたちのレベルでは、情報が入ればあちこちに行ってるんですが、これを、協議会が中心となって積極的にやっていただきたい。

2番目は、ちょっと発想が変わりますが、高校が3つの市町に残っています。高校があるということは、そのまちにとって大変重要なことで、高校がなくなると、そのまちは衰退していきます。県立高校ですから、県教委との関係があって市の力だけでは何もできないんですけど、そこへ働きかけていくということです。一言で言えば、高校の重要さをもうちょっと知る必要があると思います。高校がなくなると非常に懼れています。

3番目は、「保幼・小・中の連携・一貫教育の推進」としてはありますが、先生方の相互交流をもっとやったほうがいいと思います。小・中学校は県費負担教職員でするので県レベルでの研修があり、他の町とつながりがあるんですが、保育園・幼

稚園の先生方は、その町の中だけで生活されることが多いので、是非、ほかの町の保育園・幼稚園とつながりをもっていく。これは、関西福祉大学でお手伝いできることが多々あると思います。また、「ふるさと学習」という、圏域全体を知ることができるようなことを進めていく必要があるのではないかと思います。もちろん、それぞれの町でやっていると思いますが、隣の町のことも含めて知ってもらうほうがいいのではないのでしょうか。「保幼・小・中」を一貫した“地域子育て指針”というのが、今、よく作られています。「この圏域の子どもたちをこういう子にしよう」という親たちの願いを込めて、幼児期から中学までの子育ての指針を作って、一つの大きな基準としてそれぞれの幼稚園・小学校・中学校が頑張るといえるものです。

4番目は、私が昨年までおりました福山市立大学には「FCU48」という「ご当地アイドル」のグループがあります。これは大学の中のサークルですが、チームを作って地元のご当地キャラクターと一緒にあってあちこちで活動しています。大学生や若者にこのようなグループに参加してもらってメディアに出していくということも、戦略としては大事なのではないかと思います。ましてやそれぞれが、陣たく、円心くん、ペッカーリーなどのご当地キャラクターを持っていますので、そこが一緒になってできないものかと思います。通俗的なもので申し訳ないですが、メディアに出ていく上で、意外と効果があるということでご紹介しました。

子ども・子育てというところに観点を置いて、若者たちの参画、子どもたちの参加という点から提案させていただきました。

座長 ありがとうございます。いいレクチャーを受けたと感じています。では、皆さんからご意見や提案を受けたいと思います。どうぞ。

委員 まず、事務局に対してなんです。委員構成の中で、観光協会が今年4月1日付けで、備前市観光協会、日生町観光協会、吉永町観光協会の3観光協会が合併しまして、備前観光協会となり、新たに事務局長もおりますので、次年度からでも、委員の構成メンバーにさせていただけたらと思っています。

2点目は、27年度事業報告書の16ページの企業誘致の推進というところで、企業誘致現状分析並びに企業進出意向確認調査業務委託とありますが、この結果は、次の会議ぐらいでフィードバックいただけるのでしょうか。

3点目は、どこかのまちで孫ターンという、いわゆる圏域から出ていたお子さんの子供、つまり孫を呼び戻しましょう、といことをやっている自治体があるようです。ただ、これに対する受け皿、例えば、新卒で帰ってこようと思っても働く場所がなければ帰ってこられない、高校に上がるときに帰ってこようと思っても学科が物足りない、そういったことも含めて、これから考えていっていただけたらと思います。

事務局 構成委員の皆様方に、来年、備前市観光協会の方を加えるということですが、今後協議したいと思います。

説明員 企業誘致促進事業の関係ですが、今回、圏域内にある企業の一次取引事業という形でデータを抽出しました。企業誘致に関しては、やみくもに国内の企業にアプローチしていくのは非常に難しいということで、何をきっかけにアプローチしていこうか考え、圏域にある企業の一次取引先というのをデータ上で取り出しています。その中で約300社が抽出され、進出の意向調査を実施し、可能性のある企業にパンフレット等を送付しております。うち1社に訪問させていただいています。

委員 答えは後から出てくるということですね。

事務局 企業誘致ができれば答えが出るということになります。企業誘致は一朝一夕にできるものではございませんので、その辺はご理解いただきたいと思います。

座長 3点目については、思いということではよろしいですか。では、ほかに何かありますか。

委員 平成28年度の見直しの中に定住相談員の設置事業というのがありますが、私自身が、両親は赤穂の人間なんですけど、昨年移住してきてまして、現在、中学生、小学生、2歳の子どもを育ててるバリバリの現役の世代になります。我々にとって地域に定住する上で一番大切なのが働く場所なんです。就業支援というものについて、2市1町が連携して、情報を提供していく。例えば東京や関西で移住相談をするときに、地場産業でこういう人材不足があるとか、農業をがんばっているところがあるが担い手がないとか、そういった情報を自治体が持ち寄って提供していく。それで働く場所を見つけて、出身の方であれ、まったく関係のない方であれ、地域に入って活力を与えてくれるということになるのではないのでしょうか。昨年度や今年度の計画を見た中で、就業支援という部分が欠けているんじゃないかと思います。

2点目は、現役の子育て世代ということで、教育に大変関心を持っているところ。今、赤穂に全国大会レベルの足の速い子がいますし、上郡にも、箱根駅伝に出場するくらいの卒業生がいると聞いています。例えば、アスリート招聘事業でも、1回で終わってしまうのではなく、雇用して3市町を回って陸上指導していただくと、陸上が強い地域としてPRできるかもしれません。そうすると、子どものために親は一緒についてきます。私は長崎にいたんですが、長崎の国見高校はサッカーが強いところ。そこの監督さんが異動するところ異動するところに生徒が集まってくるんですね。島原半島の田舎に、日本全国から生徒が集まってくるんです。しかも公立高校です。そういった教育の充実、スポーツに限らず吹奏楽などの音楽関係とか、優秀な指導者を呼んできて、単発でなく2日ごと

に3市町を動くといったことで、この地域は教育が充実しているんだなと、我々世代が移住してくる可能性があると思っています。

あと、これは生意気な発言になってしまうかもしれませんが、先ほどもありましたようにニーズがあって、それに応えていく必要があると思うんです。移住・定住で、我々の世代にもニーズはあるんです。ですが、構成メンバーを見たときに、30代・40代が私しかいない。我々のような若輩者が意見を言えるという環境も作っていかないと、今のニーズを汲み取っていけないという部分もあると思います。先ほども委員の構成についてお話がありましたが、例えば、若い農業の後継者などを委員に含めることも重要ではないかと思います。

アドバイザー 今のスポーツの関係ですが、大学の宣伝にもなるかもしれませんが、私どもの大学に指定強化クラブというのがあり、かなり優秀な学生が入ってきています。サッカーでは、今年創部してからたった1年で、関西のリーグで3部から2部に上がったという状況です。そこにはJリーグで活躍したような元プロ選手が監督でいます。それから、吹奏楽についても、オープンキャンパスで、吹奏楽をやっている高校に声をかけ、プロの方にも来ていただいて、一緒に練習するというのをやったのですが、指導しているのは兵庫県では有名な吹奏楽の大家で、指導者として優れています。こういった方々が、もうこの地域にいるんですね。わが大学としまして、優秀な指導者が結構いますので、そういったことをやっている人たちをつなげていくことができるのではないのかなと思います。情報提供です。

事務局 共生ビジョン懇談会委員の構成委員に、例えば農業後継者のような若い世代をということでございますが、これにつきましても先ほどと同様、今後協議したいと思います。

座長 ありがとうございます。ほかにはありませんか。

委員 子育てについては秋川先生が書かれているとおりでと思いますが、赤穂市も5万人を切ったような状況になりつつあります。その中でも、少し市街地から離れると限界集落に近づくような集落もあり、なんとかしたいと考えて企業誘致などを市長さんにもお願いしていますが、なかなか一朝一夕に改善できないということです。子供さんや若い世代の施策も必要なんですが、お年を召した方が、健康で長生きができるような施策というんですかね。赤穂市も保健センターや公民館などで体操教室を出張してもらったり、スポーツを通じての健康増進など一生懸命やっただいてはいますが、片や、病院へ行くとお年寄りの方がたくさんいて病院が憩いの場のようになっているという話も聞きます。そういう方を巻き込んだようないい方法があればご指導いただきたいと思います。

アドバイザー 元気な高齢者の方々は、子育て支援という点で活躍いただけることが多々あると

思います。今の若いお嫁さんたちは子育てに関心はあるが、核家族化が進んで、昔からの子育ての知恵や技術を持ってなくなってきていますから、それをお持ちの方々にも上手にご指導いただくということがあってもいいと思います。子育ての集いの広場など、さまざまな親御さんが集まる場所があるので、そこでサポーターという形でやっていただけたらと思います。あるいは、備前市や相生市には、子どもたちのスクールサポーター的な役割のものがあります。備前市には、「まなび塾」というものがありますが、これは、子どもたちが長期の休みなどに公民館に来て、それを指導してくれる。こういったものは、高齢者も含めた大人に、様々なやっていただけることだと思うんですね。もちろん、病気であったり体が不自由になるようなことは多々ありますから、それに対する看護や医療の充実というのは当然大事ですが、働ける間は徹底的に働ける、活躍できるという場所も子育ての場にはたくさんあると思っています。お答えになっているかどうかはわかりませんが、これは絶対に大事なことだと思います。高齢者のいないところでは子育ての知恵が引き継がれないんです。お持ちの知恵を若い人たちにつなげていくことを、仕組みの上でも考えたほうがいいと思います。

座長 ありがとうございます。ほかにはありませんか。

委員 私はこの会に参加させていただいて3回目になります。去年の意見交換で、子育てがすべての中心にならないでしようかと提案させていただき、前回のアドバイザーの先生もそのことを強くおっしゃっていましたし、秋川先生のレジュメにも一番にそのことを書いていますが、今日、出されたものを見ますと、やはりそんなに今までの事業から変わることはない。これはどういうことなんだろうなと思って聞いています。色々なことに手を出して、色々なことをやっていって、色々なことができているというのも、確かに定住のためにはすべて大事なことなんですけど、それが、初めて参加された先生は「こんなこともしているんですね」という感想になっている。「すごいですね」ではないんですね。この会がやっている内容はすばらしいのに、どこか、「本当に力になっているのかな」という疑問をお持ちだったのでしようし、私もこれまで2回とも意見を言ったけれども、提案としては何も入ってこないということになっています。どこで誰がどうこの意見をまとめて、次の会にどう反映されていくのかということと、子育てを中心にしたプロジェクトチームをこの3市町で作って、そこで何かを考えながら提案していくとか、何か進めないと、毎回同じことを言って、出てきたものは同じものということになると感じております。

事務局 ありがとうございます。これはこの後もお話するつもりだったのですが、今日いただきましたご意見を踏まえ、圏域全体の生活が向上することで圏域の魅力が増すようなビジョンにしていくというのが今日のこの懇談会の目的です。

今、お感じになられているように、取り組めることとそうでないことがございますので、さびわけをしながら、いただきました意見をビジョンに生かしていこうと考えています。

座 長 ありがとうございます。ほかにはありませんか。

これも、ひとつずつ手順を踏んでいく必要があるかと思います。おそらく、今日、全員が思っていることだと思いますが、今までやってきたことは正しいけれども、ぼんやりして見えなかったというのがご意見だっただろうと思います。この原案を認めた上で、今まで皆さんがおっしゃったことを肝に置くということによろしいでしょうか。事務局で何かありますか。

事務局 実は、子育ての関係についてはビジョンに事業として載っていないということもあり、部会自体も存在していません。今日、先生からも貴重な意見もたくさんいただきましたので、それぞれの担当課や、関係する教育部会あたりから、今後協議していきたいと思います。ただ、28年度の事業には間に合いませんので、今後1年かけてどういったことができるか考えたいと思います。それから、3市町それぞれで地方創生の総合戦略を策定、あるいは策定中です。この中でも、「子育て」というのはキーワードのひとつになると思いますので、そのあたりの事業も含めながら、連携できるものがあれば考えていきたいと思っています。

座 長 ありがとうございます。事務局から、手順が必要ということを知りました。このことも決して置いてきぼりにならないということによろしいですね。

では、事務局からその他のことで説明がありましたらお願いします。

事務局 先ほども触れましたが、共生ビジョンは毎年見直しすることとなっております。その際には、懇談会での検討を経ることが必要となっており、本日ご検討いただいたところです。

先ほど、ご承認いただきました平成28年度共生ビジョン見直し案につきましては、今後事務局において、総務省との協議等諸手続きを経て、年度末までに公表してまいります。

座 長 活発な意見交換をありがとうございます。

これで閉会といたします。ありがとうございました。